



プログラム概要

- ・ジョグジャカルタ到着 6月21～22日
- ・会議期間 6月23～30日
- ・近郊寺院ツアー 7月1～2日
- ・ジョグジャカルタ出発 7月3日

会議のハイライト

プレゼンテーション・パネルのトピック：

- ・多様性と多文化主義
- ・多様な仏教諸派間の対話
- ・先駆的なインドネシア人仏教徒女性
- ・慈悲の精神によって
- ・比丘尼受戒：その利点と障壁
- ・平等、尊敬、在家と出家の関係
- ・ボロブドゥールの仏教
- ・慈悲深い行動主義としてのフェミニズムなど

ワークショップのトピック：

- ・尼衆寺院Perfect Illumination Monasteryでの禅
- ・小規模菜園・資源の再利用などによるスマート・リビング・コミュニティを築く
- ・仏教の諸伝統における身体への敬意
- ・未来の母のための日常の中の仏法
- ・世代をつなぐラップ音楽
- ・仏教徒女性のリーダーシップと環境の危機
- ・ジェンダーおよび性の多様性
- など、その他多数

旅行のヒント

まず、ジョグジャカルタ国際空港（アディ・スチプト空港）に6月21日に到着するフライトを予約してください。空港から会議場までは、第14回サキャディーター会議のスタッフが参加者の皆様をご案内いたします。空港で次の目的地への航空券ないし復路の航空券を提示し、25米ドルを支払えば、30日間のビザが発給されます。

インドネシアは、熱帯性の気候で、毎日雨が降ります。6月のジョグジャカルタの気温は、23～33℃くらいで、昼夜の寒暖の差が大きいです。軽い綿の衣服、傘、そしてサンダルないし履きなれた靴をお勧めいたします。また、インドネシアの文化に敬意を払い、適切な服装を心がけてください。（丈の短いスカートやパンツ、タンクトップ、肌が透けて見えるような服装は控えてください）



インドネシア文化遺産の地へのツアー

会議終了後、ジョグジャカルタ近郊にある神聖な文化遺産の場へ2日間のツアーがあります。世界で最も感嘆すべき文化遺産であるボロブドゥール遺跡での早朝の瞑想は、何よりも最高の経験となることでしょう。この文化ツアーでは、パウオン、ムンドゥル、ラトゥ・ボコ、カラサン、サリ、セウウ、プラオサンなどの歴史的仏教・ヒンドゥー遺跡にご案内いたします。別途、バリ、スマトラなど他の島々への個人ツアーを追加することも可能です。



参加手続き

サキャディーターの下記ウェブサイトでオンライン参加手続きが可能です。
www.sakyadhita.org

- 参加費用はすべてUSドルでの支払いとなります。
- ・3月1日までの早期申込み： 60米ドル
- ・4月15日までの通常申込み： 80米ドル
- ・5月15日までの後期申込み： 100米ドル
- ・2日間の近郊寺院ツアー： 30米ドル
- ・食費（6月23～30日分、伝統的なインドネシアのベジタリアン料理）： 80米ドル
- ・6月21、22日、7月1、3日の空港送迎は、こちらで手配いたします。

＊重要＊ 会議参加費は、払い戻しできません。食費・近郊寺院ツアーの参加費をお支払いいただいた後に、キャンセルすることになった場合には、すでにお支払いいただいた参加費分の金額を発展途上国から参加している女性たちへの基金にご寄附いただく形になりますので、よろしくご了承ください。

会議会場となるSambi Resortでは、一泊約20米ドル前後で、さまざまな宿泊タイプをお選びいただけます。また、近隣農村では、一泊10米ドルでの格安な宿泊が可能です。ご希望にそった宿泊タイプを確実にするためには、どうか早めにお申し込みください。

Sambi Resort
Jl. Kaliurang km. 19.2
Desa Wisata Sambi
Pakembinangun-Sleman
Yogyakarta
電話 +62 274 4478 666
ファックス +62 274 4478 777
予約手続きは www.sambiresort.com

会議参加者用割引価格での宿泊のご予約は、下記リンクからお手続きいただいたうえで、予約係(Contact Booking)宛に“Sakyadhita Event 2015”(「2015年サキャディーター会議参加」と記したメールをお送りください。

<http://www.sambiresort.com/contact.html>
会議開催期間中は、サキャディーター会議参加者以外のご予約は受け付けていません。



第14回サキャディーター国際女性仏教徒会議

—慈悲と社会正義—
インドネシア共和国 ジョグジャカルタ
2015年6月23～25日

「慈悲と社会正義」

サキャディーターは、第14回国際女性仏教徒会議をインドネシア共和国ジョグジャカルタ市郊外のカリウラン高原にあるサンビ・リゾート (Sambi Resort) で開催いたしますことを謹んでご報告申し上げます。サンビには、熱帯のムードと広々とした空間があり、瞑想、啓発的プレゼンテーション、ワークショップ、参加者間の討論や異文化交流に最適な場となっています。サキャディーター会議では、どのような声もすべて歓迎されます。女性であれ、男性であれ、在家であれ、出家であれ、年齢がいくつであれ、国籍が何であれ、どのような見解を持っているのであれ、すべての立場の人々の発言を歓迎します。



サキャディーターと慈悲と社会正義

過去数世紀にわたって、女性の仏教徒は自らが属するコミュニティの心の幸福そして社会の幸福に多大なる貢献をしてきました。しかし、女性の仏教徒は、自らのコミュニティ形成にかかわる宗教的・政治的・社会的指導者間の交渉過程から、しばしば除外されてきました。意思決定者や活動家たちは、女性の仏教徒による貢献についてよく知らなかったのかもしれませんが、女性仏教徒は自分自身の日常生活に影響を及ぼす極めて重要な問題から切り離された状態にあったのかもしれません。第14回サキャディーター会議では、仏法と女性としての経験の社会的・政治的側面をより良く結びつけることができるような討論の機会を提供します。私たちは、慈悲の心と精神的な成長がより公正で平和な世界を形成する手助けとなる方法をともに探求します。



サキャディーター：仏教徒女性の覚醒

ここ数十年で、仏教に生きる女性というトピックは、格段に注目を浴びるようになりました。1960年代以降、仏教に対する関心が世界中で飛躍的に高まっており、その隆盛は、偉大な仏教の師、仏教に関する新たな研究と最新の出版物、インターネット、優れた仏教教育機関の発展、仏教徒による活発な社会奉仕活動によって促進されてきました。こうした近年の仏教に対する関心の高まりは、女性の能力と可能性に対する人々の意識の高まりと、時を同じくしていました。確かに、ブッダは女性にも全く同等の悟りの能力があることを認め、数えきれないほどの女性たちがすでに煩悩からの解放を達成してきたではありませんが、今日、仏法を熱心に学ぶ多くの女性たちが仏教教育を受ける機会から遠ざけられ、仏教の組織の内部で適切に代表されていません。1987年以来、サキャディーターは、こうした論点をはじめ、仏教徒女性の人生にとって中心的な問題となっているその他さまざまな論点について議論する場を作り出してきました。

インドネシア：古代仏教文化が栄えた地

インドネシア共和国は、13,466の島々と2億5,500万の人口を抱える世界で4番目に人口の多い国です。インドネシアの島々の壮大な熱帯林は、世界で二番目に生物多様性に富んでいます。1945年に独立国家となった世界最大のムスリム国家(86%)インドネシアは、300以上の異なる民族集団と仏教徒(1.8%)、キリスト教徒(8.7%)、ヒンドゥー教徒(3%)、そして祖先崇拝の集団を擁しています。400万人の仏教徒がインドネシア全土の都市や村落に居住しており、特にジャワ島、スマトラ島、バリ島、ロン

ボック島に多く居住しています。

考古学者は、インドネシアの中でも、特にスマトラ島とジャワ島に、多数の仏教寺院と遺跡のネットワークがあることを発見しました。もっとも有名な遺跡はボロブドゥールです。ボロブドゥールは、ジョグジャカルタ近郊にある巨大な寺院で、その歴史は9世紀にさかのぼります。ボロブドゥール遺跡は、9段の曼荼羅の形状に作られており、2,672枚の浅浮き彫り彫刻のパネルと504体の仏像を備えています。インドネシアには、さらに数多くの仏教遺産があると考えられていますが、インドネシア仏教史の詳細はいまだ明らかになっていません。



豊富な遺跡の存在は、インドネシアが数世紀にわたって、宗教と文化のるつぽであったことを示しています。古代ヒンドゥー寺院のプランバナンは7世紀にさかのぼります。カラサン石造仏教寺院(Candi Kalasan)は、ターラー(多羅菩薩)に捧げられた素晴らしい寺院で、ジャワで最も古い(紀元後778年)仏教遺跡です。

ジャワ島の文化的中心地であるジョグジャカルタの町は、1755年、マンクブミ王子(Prince Mangkubumi)によって建設され、第二次大戦後の独立革命期には植民地支配に対する抵抗の拠点であったことで知られています。スルタンの王宮(クラトン)を取り巻くように建設されたジョグジャカルタの町は、バティック、銀細工、



影絵芝居、ガムラン音楽などの芸術作品、そして多数の大学があることで有名です。

スマトラ島には、7世紀以降、シュリヴィジャヤ王国の中で仏教の教学が栄えてきました。チベット仏教には、1032年、インドで失われた貴重な教えを取り戻すため、インドネシアに渡った偉大なベンガル人学僧アティーシャ・デイーパンカラ・シュリージュニャーナ(Atisha Dipankara Shrijnana)の物語が伝わっています。当時、シュリヴィジャヤ王国は、活気に満ちた仏教教学の中心地でした。12年後、アティーシャはインドに戻り、その後さらにチベットに招かれました。チベットの地で、彼はサキャ派、カギュ派、ゲルク派等の仏教の新しい宗教流派の創始者となったのです。彼は、特にシャンティデーバの『入菩提行論』という利他的精神に基づいた悟りを求める心(bodhicitta 菩提心)を培う方法について教えた古典的テキストを取り戻したことで、非常に高く尊敬されています。それは、インドネシアの初期の仏教徒が人類のためにこれらの無限の価値を有する教えを保存していたおかげなのです。



もう一つのインドネシアの偉大な文化遺産は、その料理です。第14回会議参加者は、12の異なる州の郷土料理に接する機会があります。ジャワ、スマトラ、スラウェシ、カリマンタンの仏教徒女性、そして数多くのエキゾチックな場が、世界的に知られたホスピタリティでもてなしてくれます。テンペ(発酵大豆を油で揚げたもの)、ガドガドサラダ、ベジタリアン化されたナシゴレン(焼き飯)、サテ、ミーゴレン(焼きそば)が、ブッダの娘たちであるサキャディーターとその友人たちのために準備されています。